

コース概要

眼科専攻コース

【プログラムの目的と特色】

2年間の前期研修を終えて眼科臨床医に求められる検査機器、診療、手術に必要な知識、技能の修得を行う。眼科臨床の幅広い分野の疾患を経験し、研修状況により早期から外来診療、レーザー手術、手術を担当して眼科専門医として活躍できる基盤を築く。



【研修内容と到達目標】

後期1年次

眼科検査機器、診断機器の使用に必要な知識、手技の修得を行う。

具体的には細隙燈顕微鏡検査、倒像鏡、隅角鏡などを使用しての診察、スキアスコピーを使用しての屈折検査、矯正視力検査、各種眼圧測定法、色覚検査、自動視野計、ゴールドマン視野計、調節機能検査、両眼視機能検査の知識、手技を修得する。

手術については網膜光凝固術、麦粒腫などの外眼部手術から始め、水晶体再建術を部分的に習得する。

また画像診断機器として眼科X線、CT、MRIや蛍光眼底造影検査、電気生理学的検査の手技、診断ができるようになる。

後期2～3年次

1年次で数多い眼科診断機器、検査機器、診察機器を習得した上で白内障、緑内障等の内眼手術の病期を適切に診断して手術できるようにする。レーザー手術では虹彩光凝固術やYAGレーザー後嚢切開術などすべての術式を習得する。また当院では小児、未熟児の症例が多く未熟児網膜症の診断、網膜光凝固を行う。斜視弱視疾患に関する検査結果を理解して治療方針を決めることができるようにすると共に全身疾患との関連の中で眼疾患を理解して、他科と連携して治療を行うことができるようになる。3年次以降臨床研究、症例報告を学会発表、論文執筆を行います。

【週間スケジュール及び主催勉強会等】

	月	火	水	木	金
午前	初診外来	一般外来 蛍光眼底検査	未熟児診療	一般外来	一般外来
午後	手術	光凝固術 斜視弱視外来	眼科カンファレンス	光凝固術 斜視弱視外来	手術 外来手術

【平成22年度手術・検査等診療実績】

術名・検査名	件数
水晶体再建術	248
翼状片切除弁移植術	4
眼輪筋短縮術	4
ホツツ変法	2
斜視前後転術	1
脂肪ヘルニア門閉鎖術	1
前房洗浄術	1
眼瞼結膜腫瘍切除術	2
合計	262

コース概要

【指導医】

医師名	役職	医師資格 取得年	所属学会・資格等	専門領域
大萩 豊	部長	平 6	日本眼科学会専門医	眼科一般
加藤 正幸	医長	平 13	日本眼科学会専門医	眼科一般

【取得可能な認定医・専門医】

日本眼科学会専門医

【学会認定・施設】

日本眼科学会専門医制度研修施設